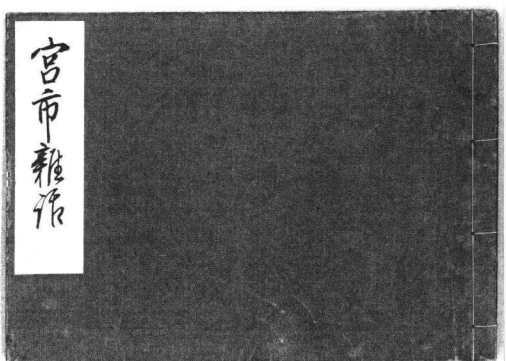


徳富淇水 ととみ きみみ 漢學者。文政五年九月二十四日肥後國葦北郡津奈木  
 生れ、大正三年五月二十六日歿（八二—一九四）。諱一敬、かたがね幼名萬熊、  
 通稱太多助、のち太多七。別號吾不與齋主人、老龍庵。横井小楠門下。  
 明治二年熊本藩に奉行所書記兼録事、民政大属とほる。五年白川縣出  
 仕、翌年辭職。その後長男徳富蘇峰の大江義教を講義するほど、専ら  
 勸業教育に従事。十九年東京に學家轉住、二十九年湘南逗子に移つて  
 自適。次男は徳富蘆花、妻久子は竹崎順子の妹。  
 著書に『隨感漫筆』（大正二年八月七日緒一郎跋、無刊記）。また徳  
 富家六代茂十郎貞申の備忘手録複製『宮市雜話』（大正二年九月壹佰  
 部頒布徳富家子弟）に「貞申若履歴」を同筆附載。



（墨田清輝畫）



宮市雜話